

7/20  
毛旗

戦争法案「支持率下げてもやる」

自民党の高村正彦副総裁は、19日のNHK日曜討論に出演し、自民、公明両党による戦争法案の強行採決で、国民の反対世論が高まっていることについて、「刹那(せつな)的な世論」などと発言し、聞き直る姿勢を示しました。

番組では、7月のNHK世論調査で国会での法案の審議が「早くされていない」と答えた国民が56%、与党支持者でも46%に達したことが紹介されました。これに対し高村氏は、与党議員の質問時間が少なかったため、法案の「必要性」が「引き出せなかった」と弁明しました。

高村氏は「安全保障の問題は難しい。そのときの刹那的な世論だけに頼っていたら、自衛隊法も安保条約改定もできなかった」と発言。その上で、「(これまでの政策も)多少、支持率を下げてもやってきた。これが自民党の歴史です」と述べ、戦争法案の成立へ突き進む考えを示しました。

# 自民・高村氏 「反対世論は刹那的」